

S-7 気仙沼市鹿折浪板地区

2012年1月28日(土)

報告者名	梅屋 潔	被調査者生年	1955年(男) 屋号は「長浜」
調査者名	梅屋 潔		1951年(女)
		被調査者属性	本吉響高校教諭、夫妻

震災時の様子

本吉響高校教諭。本試験は10日で終わっていたが、面接など他校にない科目の採点のため、休校で生徒はいなかった。本来は採点が終わってから家庭訪問に行くつもりだったが、早く終わったので帰る途中だった。本吉から室根経由で大浦を目指したが、大浦は火の海。鹿折トンネルで引き返し、夜10時ごろにはワンテンにいた。病院で入院中の父親の無事を確認して新月のオジの家にお世話になった。それは14日のことだと思うが、その間のことはよく覚えていない。もともと15日から入院予定だったので、入院してしまおうと思ったが、拒否されたのでオジの家に行ったようだ。最近学校でも3.11に何をしていたのか、という作文課題を国語の教員中心にまとめている。学校が休みだったのでいろいろなケースがある。防災マニュアルを策定するべきだと県にも市にも進言している。

今回、震災で神棚を失った家に対し、木製の神棚が八幡神社から配布された。財源は神社庁だと聞いている。

「長浜」の由来

長浜屋敷と呼ばれる屋敷が飯綱神社の裏手にあった。ながらく浪板の塩田の肝煎りであったらしい。津波で流れたが、租税を塩で納めた記録が残っていたようだ。気仙沼市史編纂室の調査員が熱心に調査していた(A氏)。B氏も来ていたのを覚えているが彼はもっぱらイワシ漁のことを調べていた。平成3年に亡くなった祖父が、インタビューを受けていた。家系図もあったが、系図屋から購入したものだ。私で17代目にあたる。長浜屋敷にまつわる民話もあるようだが、ラジオでたまたま耳にした程度で、詳細は思い出せない。大浦には「大家(おおい)」「小浜(こばま)」という旧家があるが、そこよりも古い、という人もいる。火事で文書が焼けており、今度の震災で新しいものも津波で流されたので、書かれたものは残っていない。おそらくは(酒ともいわれるが、不確実)、財産を失い、大浦長浜という、浜があったところに移転したものと思われる。大浦の屋号にも「長浜の上」など、長浜にちなむものが多い。その時に一对の金無垢のお稻荷さんの本尊(権現とも称される)を売り払ったとみえ、現在では秋田の医師がそれを所有しているという。現在のご神体は、コンクリートのようだ。飯綱神社には、「葉山」の碑もある。

トラカッシャ(虎頭)とカンザ

ながらくトラカッシャ(虎頭)をするのは「鍛冶座(かんざ)」という屋号のC氏の家である。

その弟が塩辛など水産加工業「株式会社小野万」を興した。2代にわたってそこから嫁が来ているので、縁続きではある。C氏の息子、D氏が、長らくカッシャをやっていた。現在では誰でもやるようだが。あの家には氏神もある。

もともとは、地域の人しかかかわることができなかったが、笛を吹いているE氏がPTA会長の時に、子供たちやその母親を巻き込んでいくような形になったのだと思う。演芸部長のF氏が若いうちからかかわっているので詳しい。ただ、別家の別家で遠慮があるようだ。

大浦に関して言うと、「大家」「小浜」が中心となり、その別家が関係するようだ。

初舞について / その他

我々も婿を取ってこちらに転居してくるまで、初舞などはしなかった。10数年前ぐらいではなかろうか。旧正月に行っていたはずである。正月は浪板一区で16組ぐらい神輿巡行の際は、地区の班から一人ずつ出る。神社の係もある。最近虎舞がしょっちゅう回っているのは、花を求めためもある。

大浦のうちばやし

大浦にも戦前までうちばやしがあり、伝承者もいたので復興の機運が高まったこともあるがうまくいかなかった。

階上の虎舞

婿が育った階上にもうちばやしも虎舞もあるが、虎舞にはバカシはいない。いつだったか怪我したとかなくなったとかの事故があり、とりやめになったらしい。浪板でも昭和の時代、みなとまつりで梯子から転落して死亡者がでたことがある。